

修士学位論文等要旨
Abstract of Master's Dissertation or Selected Topical Research

論文提出者 / The person who submits a thesis

専攻名 / Department 工学 専攻
分野名 / Division 水環境・土木工学 分野
学籍番号 / Student ID 19w3013k
氏名 / Name 羽入田 武

論文等題目 / Title 農村地域における小さな拠点の形成可能性に関する研究

論文等要旨 (1,000 字以内) / Abstract (Within 1,000 characters in Japanese or 300 words in English)

目的：近年，わが国の農村地域では，人口減少と少子高齢化の進行に伴い，生活利便施設の衰退等の様々な問題が発生している．その中で国土交通省は 2014 年に「国土のグランドデザイン 2050」を制定し，「コンパクト+ネットワーク」という考え方のもと，拠点形成と，それをつなぐ交通網を整備する方針を定めた．農村地域では，複数の集落の中心に，徒歩移動が可能な範囲内に商業・医療施設を配置し，周りの集落と交通網を結ぶことで，地域住民が暮らし続けることができる「小さな拠点」を形成する取り組みが行われている．本研究では，長野県の代表的な農村地域である白馬村・小谷村を対象として，コンパクト・ネットワークのそれぞれの観点から，両村の現状を分析し，課題を明らかにした．また，改善案を提案し，実際に行われる予定の施策と関連付けて各分析の結果を総合的に判断することで，両村に小さな拠点が形成される可能性を検討した．

方法：基盤地図情報（道路縁の真幅道路）から道路網データを作成し，100m メッシュ単位で将来人口推計を行った．ネットワークの観点から，レベル別（村・小学校区・地区）に生活利便施設までの最短道路距離（アクセス性）を算出し，人口の累計値とアクセス性関係から施設利用者の割合を算出した．また，歩行によるエネルギーの消費を考慮した施設へのアクセス性の分析によって，徒歩で利用する施設へアクセス性を明らかにした．コンパクトの観点から小さな拠点の候補地の分布を明らかにするために，各生活利便施設を中心として到達圏分析を行い，施設が集積した場所を明らかにした．

結果：小谷村では，生活利便施設へのアクセス性が全般的に低く，小学校区によってアクセス性に格差があることが明らかになった．一方でバス停へのアクセス性は高く，拠点に接続する公共交通機関として利用できるものの，拠点候補地としての生活利便施設の集積がみられないため，改善案として集約施設の建設によるアクセス性の変化を分析した結果，村内に立地しない施設へのアクセス性が大幅に改善することが明らかになった．白馬村では，生活利便施設へのアクセス性は高いものの，バス停や避難所などの徒歩による利用が想定される施設へのアクセス性がやや低く，自動車に依存した生活になっていることが推察できた．